

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170700167		
法人名	(有)さわやか門前		
事業所名	グループホーム 門前		
所在地	鹿島市古枝1650番地		
自己評価作成日	令和4年1月21日	評価結果市町村受理日	令和4年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和4年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○一人一人がゆっくり、楽しく穏やかに生活されるように、相手の気持ちを良く聴いて支援している。○月に一度のピクニックが、コロナの為、出かけることが難しくなったが、リビングでのラジオ体操や塗り絵、折り紙、カラオケなどを、皆さん熱心しておられ作品が増えてきた。○毎月入居者のそれぞれのご家族様へ、写真入りで、その月のご様子を心をこめ手書きで送っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日本三大稲荷に数えられる祐徳神社の参道脇に位置するホームは、地域との結びつきが深く、日頃から近所の方が声かけしてくれたり、水害時は近所の方の協力があり避難することができている。ホーム内は静かで温かな雰囲気が漂っており、一人ひとりに応じたケアがなされている。コロナ感染対策で行動が制限される中でも、入居者が楽しんで生活できるよう季節感がある創作活動を行ったり、近場へのドライブ、ホームから家族へ手作りのお便りを送ったり等、工夫された取り組みがみられるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の掲示、毎月のミーティング、日々の申し送り等での確認、職員間で理念の実践につながるように協力し、利用者さんと向き合っている。	ホーム内に理念を提示しており、毎月のミーティング時に全職員で確認し、振り返りを行っている。長年勤務している職員が多く、理念が浸透している状況である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近所の散歩で挨拶や何気ない会話を大切にしているが、コロナ感染予防を考えると地域でのコミュニケーションを図ることも難しく感じる。	地域とのつながりは深く交流する機会も多かったが、コロナ禍で外出する機会が減少している。地域の方から行事等の情報を提供してもらったり、ホームからの近況報告を行い、これまで通り地域との関係性は継続できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を各公民館で開催していたが、コロナ感染防止の為中止となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し互いに現況報告していたが、コロナ感染予防の為中止となり、グループホームでの様子や、状態などをプリントし封書で配達し、会えた時には意見などを聞いている。	定期的に運営推進会議が実施されており、区長や老人会、消防団など地域の方の参加もあるが、コロナ禍のため、現在は書面で開催している。書面は詳しく記載されており、状況が伝わりやすい内容になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎年認知症サポーター養成講座の共催、運営推進会議への参加要請、市包括支援センター主催徘徊見守り訓練への参加がコロナで活動中止となったが、生活保護の方などのケアプランや情報を提供し協力関係を築いている。	行政とは日頃から顔が見える関係性であり連携が図れている。ホームの状況を積極的に伝えたり、行政からの情報提供を受け、コロナ禍等はケアに活かすことができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のミーティング、これまでの外部研修で学んできたことを職員間で共有、理解し、日常会話の中でも確認するなど、実践につなげている。	身体拘束はしていない。外部研修への参加やホームでの勉強会を実施し、全職員で身体拘束マニュアルの確認を行い、共有し、理解を深めている。身体拘束適正化委員会が設置されており、運営推進会議でも身体拘束について取り上げている。しかし、必要な様式について整備が不十分である。	ホーム内で開催している身体拘束についての勉強会や、身体拘束適正化委員会の議事録について、わかりやすい整備がなされると、よりよいホームになると期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティング、日々の申し送り、これまでの研修で学んだ知識等を共有し、虐待がないように努めている。特に言葉の選択に気を付けることを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方の支援をしている。また、研修の機会があれば参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明しているつもりだが、足りないところがあったり、疑問に思われることがあったら、その都度説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議は2年程開催になく、家族からの意見はなかったが、受診時や利用料を持ってきてもらった時に、家族が意見など話しやすいように話しかけ、聞いている。	コロナ禍のため、家族が会議に出席することは少なくなったが、密に電話連絡をとりあったり、定期的にお便りを送り、ホーム内の様子を知らせている。ホームを家族が訪問した際も、話しやすい雰囲気作りができています。しかし、ホーム内の様子が見えにくい状況がある。	コロナ禍で家族がホームの中に入ることができず、ホーム内での生活状況が見えにくくなっている。入居者の様子だけでなく、支援者との関わり等、ホーム内の生活の様子が見えるような工夫に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者様に関する意見や提案は、反映されているが、職員の事に関しては反映されていないように思う。 職員の個人面談の時間を検討中。	職場の雰囲気作りを大切にし、管理者は職員の意見を反映しやすいように、日常での会話を大切にしている。個別面談を設け、些細なことでも耳を傾け意見を聞くよう努め、意見を反映できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年休100%、希望休は日数を設けず、希望により夜勤回数を決めて、出来るだけ働きやすいように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	学習、研修内容記録、分野別 検索カードを職員それぞれにつくり、希望する研修や分野別で少ない研修に出来るだけ参加されるように勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	杵藤地区でのグループホーム交流会（12グループホーム）に参加し勉強会を開いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との会話の中で趣味や家族 関係など情報を聞き出しながら 安心して過ごされるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族さんが面会に来られた時は 何げない会話の中で要望を聞いて信頼関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされる支援をミーティングなどで話し合い対応できる よう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と会話をしながら得意とされる 事を聞き出し手伝ってもらいながら 教わり共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度のおたよりで生活状況 などお知らせし、家族の事を 話される時は安心されるよう電話で 話してもらおう等している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた時は、場所を提供し ゆっくり話しが出来よう心掛けている。時には自宅周辺までドライブに出ている。	コロナ禍で対面での面会が難しくなっているが、感染対策を十分に行い、近所の方や友人との付き合いが継続できるよう検討しながら対応している。馴染みの場所へのドライブも実施できている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生会などする時はテーブルをまとめ 一緒に参加してもらい、トラブルなど あった時はさりげなく、テーブルを離す等、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の施設や病院への情報提供 移られてしばらくは様子を伺うなどしている。フォローできる体制をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常から思いや意向をくみ取ることを大切にしている。職員それぞれから、知り得た情報を共有している。困難な場合は、家族等にお尋ねすることもある。	日常生活での会話を大切にしており、本人の思いをくみ取り、ケアに活かすことができている。創作活動時は入居者と職員が一緒に取り組み、会話の中で気づくことがあれば記録を残し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、担当ケアマネ・医チーム等、本人に関わるあらゆる人達と関係し情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録、申し送り、ミーティング、家族からの情報等により最新の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の業務の中で、職員や関係する人達の意見を聞き、ミーティングや申し送りで共有を図り介護計画に反映させている。	本人や家族の声に常日頃から耳を傾け、関係者からの意見も取り入れながら介護計画を作成している。介護計画は、本人の状態変化に応じて、その都度変更され、職員間で情報共有し、個々に応じた適切なケアができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫が記録に残っていることがほとんどだが、口頭での申し送りで終わったり、共有されていないことがある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズへの柔軟な対応は大体できていると思うが、本人・家族、職員と各々の考え、思いの折り合いをつける必要がある場合に難しさを感じる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣保班や消防団を交えての避難訓練 カラオケ同好会や催しの慰問は コロナの影響で行えてない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は家族対応で願っている。必要時同行、受診代行をしている。訪問診療を利用されている方もいる。事前に状態を伝えている。	入居前のかかりつけ医を継続することが可能であり、受診の際は家族に同行してもらっているが、対応できない場合はホームで同行している。情報提供や連絡のやりとりを密に行い、緊急時の対応等も医療機関と連携を図ることができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の訪問時に診てもらったり、電話で相談ができる状態にあり、早期対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療ソーシャルワーカーを始め、病院関係者とのやりとりを密に行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族やかかりつけ医と相談しながら、グループホームで出来ることを説明し、本人や家族の希望に寄り添いながら支援している。	入居時に、ホームから重症化した場合や終末期のあり方について説明を行い、本人、家族と話し合いをしながら適切な対応に努めている。緊急時の連絡が取りやすいよう、体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの講習を消防署に依頼し 訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や水害の避難訓練は現在 職員、利用者のみで行っている。非常食も準備し、必要性も話し合いを行っている。	近隣住民にも参加してもらい定期的に火災避難訓練を行ってきたが、コロナ禍で住民の参加が難しくなっており、ホームの職員のみで実施している。訓練の振り返りや消防署、地域住民との情報交換はできているが、夜間配置職員が訓練に参加できていない。	夜間配置職員の火災避難訓練への参加が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格を把握し一人一人に穏やかに対応する心がけているが、同じ事をくり返される時には強い口調になっている時があり、ひと呼吸おく様に心かけしている。	入居者一人ひとりの思いを大切にし、さりげない声かけやプライバシーに配慮した支援が行われている。より良い支援については職員間でも情報共有を行い、日頃から意識付けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉での抑制に注意して個々に寄りそい、思いや希望を表出しやすいようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活サイクルの中で体操など必要な事は声掛け 促し、個々の生活のリズムに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	まずは清潔にして、服選びは、一緒に行ない 散髪が必要な時には声かけしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ほとんどのの方が何でも食べられていて、食事中はいちばんの笑顔が見られている。台拭きは手伝われている。	食事は、個々の状態に応じた形態で提供されており、入居者のリクエストメニューや季節の料理、地域の食材を活かした料理等も取り入れられている。食事では、笑顔が多くみられ、楽しんで食事することができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量、水分量は確実に把握 出来ていて個々にあった形態で提供 されている。ほとんどのの方が完食に近い 状態で維持されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ誘導して介助の必要な時には、横にいて確認して手助けする時もある。自立の方は、確実に出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを職員間で共有しADLが低下しない様に見守り、介助の支援を行っている。	排泄チェック表をタブレット端末で管理しており、職員間で行動パターンを共有することができている。排泄が難しい方についても、声かけのタイミングや習慣を把握し、個別の排泄支援ができている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護師に相談をして下剤の調整を行ったり自然排便の為の運動をしたり、牛乳やヨーグルトの提供をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り希望に沿うようにしている。受診前には入浴していただいたり、入浴できない時は清拭や足浴の支援を行っている。	入浴の制限はなく、リラックスした時間を過ごすことができている。入浴を拒否される方については、足浴から促す等、工夫しながら対応している。浴室内や脱衣所も空調が調整されており、安心して快適な入浴の環境が整っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度調節や掃除、安心して休まれる様清潔を保つ様支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人飲まれている薬を完全に把握できていないが、間違いなく飲んでいただく様名前確認をして提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出を楽しみにされているので、ドライブの時等嗜好品を食べていただく等行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナで一人一人の外出は難しいが、ホーム周囲の散歩等できる範囲で行なうように努めている。	コロナ禍のため、人が多い場所への外出は少なくなったが、入居者の要望を取り入れながら近隣の散歩やドライブへ出かけ、気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つと安心される方がおられるが 現在所持されてる方は いない。持ったとしても使える時はないと自覚されてもいる様子。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりはないが 本人の希望があった場合は取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝一の居室の換気 各部屋の掃除などは毎日行う。室温は外気からの取り入れ 必要に応じてエアコン使用。	リビングや廊下は、入居者が創作活動で作った作品や、季節を感じる飾り付けになっており、明るい雰囲気がある。室内の音や空調にも配慮しており、静かで過ごしやすい環境づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	立ち上がり移動時など、考えて 席を考えている。テーブルを活かしてのレクリエーションなど行う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の品・写真・絵など 飾っている。	使い慣れた物や家具等の持ち込みは自由であり、居室内の配置も本人に合わせて可能である。居室には家族の写真や趣味の作品が飾られ、過ごしやすい環境で生活することができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	手すりは、必要などところに取り付け、歩行時だけの使用だけでなく 手すりを使ってのスクワットやかかとあげなど 軽い運動をするよう声かけしている。		